

守谷市議選予定候補者として

こ 菅 勝彦 さん

立憲民主党公認を決定しました。

小菅さんの主張と政策を紹介します。

それぞれの“生きる”により添う守谷市政へ。

私は、38歳のときに自分が糖尿病であることを知りました。父も重い糖尿病患者でした。私の場合は、父ほど重篤でなく、仕事も外回りから内勤に変えてもらうことで以前と変わらず働き続けることができました。

その私の兄は、聴覚に障がいを持って生まれてきました。兄はとにかく明るく前向きな人です。時間がかかっても必要なことは人に伝えようと「努力」する人です。

だから、兄は普通に“生きる”ことに人の何倍も「努力」をします。

小さいころ、友達と一緒に公園で遊んでいたとき、なかなか遊びのルール分らない兄に、まわりの子たちが戸惑っている光景を見たことがあります。そんな中、一緒に遊びたいと一人明るく笑う兄の姿を見て、現実の「不公平さ」に胸が痛くなりました。

人はそれぞれ生まれながらにして持っているものが違います。お金に恵まれている人、丈夫な体の人、容姿に優れている人、様々です。

障がいを持っている
兄の生き方が
いつも心の中にある。

私は糖尿病を抱え、兄は聴覚障がいを抱えて生きています。

そのために、人それぞれに、生きていくにあたって必要となる「努力」の量が違ってきます。

そして、そんな「不公平な現実」を私は少しでも変えていかなければならないと思っています。

生来、必要とされる努力の量、その凸凹を多少なりとも平らにするために欠かせないものがあります。

それは、公共サービスです。しかし、残念ながら、まだまだその在り方は十分ではありません。

だから、

「それぞれの“生きる”により添う守谷市政の実現。」に向けて、私は、兄に負けない明るく前向きな気持ちで、新たな世界へ挑戦します。



文化・芸術の振興と ボトムアップで 心豊かな守谷市へ。

地域に生きる普通の
ひとたちのリアリティが大事。

私は、守谷中学校吹奏楽部の創立メンバーのひとりです。“音楽家になりたい”という夢を抱き音楽専門学校に進み、その後会社員として32年間働いている間もサックスを続けてきました。

いま、守谷中の吹奏楽部はとてもレベルが高い活動をしていますし、市民による文化・芸術活動も様々行われています。こうした市民活動を支援するため、公民館や公共施設などを活用し、練習や演奏したいと思う人がいつでも利用できる場を増やしていくことが大切です。

【小菅勝彦プロフィール】1964年生まれの現在55歳。守谷市出身で、高野小学校、守谷中学校、取手一高、市川音楽専門学校を卒業。地元の事務機器販売会社に就職し、約32年間サラリーマン生活。趣味はサックスを吹くことと、鹿島アントラーズを応援すること。その応援でスタジアムで出会ったパートナーと、母、妹の4人で高野に在住。

また、プロだけでなく市民も自由に演奏したり一緒に聴いたりできる場をつくることは、人と人が交流するきっかけとなります。TXの沿線開発で守谷市に移り住む人々が増える中、趣味や余暇を通じた、顔の見える、心豊かなコミュニティをつくりたいと思います。

大事なことは、守谷市に暮らす人々の思いをくみ上げることです。私自身、中央公民館の改築では「よい音響の設備になるといいな」と思ったことがあります。サラリーマン生活を送る中でなかなかそうした思いを話せる機会はありませんでした。

地域に生きる普通の人たちのリアリティをちゃんとすくい取りながら、政策にしていこうというボトムアップの基本姿勢を、守谷市で根づかせていきたいと思っています。



小菅勝彦事務所／守谷市高野5067-2 電話：070-3848-4638

守谷市から草の根民主主義の 新しい挑戦が始まります。

立憲民主党
The Constitutional
Democratic Party of Japan



本当の変化は、
必ず小さな声から
はじまります。

わたしたち、立憲民主党がめざすのは、日本に真の意味での草の根民主主義をつくりだすこと、そして現場の切実な声に根ざした政治を実現することです。色々な困難を抱える人たち、様々な課題に果敢に挑戦する人たち、現在の政治に失望している人たち、それでもなんとか政治を変えたいと願う人たちがいます。

この日本社会に生きる多様な人たちとつながり、ボトムアップで新たな未来のビジョンを描きたい。

本当の変化は、必ず小さな声からはじまります。

立憲民主党の挑戦は、あなたなしには成し遂げることはできません。ともに新たな挑戦をはじめましょう。わたしたちには、あなたの力が必要です。